

2026年度第1回委託業者合同会議議事録

日 時： 2026 年 5 月 28 日（木） 15:30～16:30

場 所： Zoomを使用したオンライン

参加者：

【NPO法人大学図書館支援機構（IAAL）】

岡田智佳子・吉野知義・幸島裕美

【私立大学図書館協会東地区部会研究部】

山田祐子（中央大学）・平山建三（大東文化大学）

佐藤佐和子（慶應義塾大学）・滝沢麻衣（早稲田大学）

西脇亜由子（明治大学）・辺見純子（帝京大学）・長谷川美樹（文教大学）

藏本祐史（文教大学）・飯泉慎也（専修大学）

事務局： 丸山雄太（大正大学）・畑中優昌（大正大学）

欠 席： なし ※順不同、敬称略

議事概要：

（１）2026年度研修会の申込状況

5月26日時点で全体の申込者数は64名であることが報告された。当初の申込期限である5月20日時点で申込者数が少ない研修コースがあったため、申込期限を5月末まで延長していることが確認された。月明けの6月に最終確定人数を受領した後、Googleグループでメーリングリストを作成し、各講師へ提供したうえで研修を開始する流れであることが説明された。

（２）各研修コースの概要

①初任者研修

定員25名に達しており、追加募集は行わず、研修は6月から11月まで、8月を除く5か月間で月1回、全5回実施予定で初回は6月12日金曜日であることが報告された。大学図書館員として必要な情報を扱い、大学図書館コミュニティとのつながりを意識した内容になっている。第3回は都内大学図書館の見学ツアー、第5回は図書館総合展の見学を予定していることが説明された。

②PB（Problem Based）研修

5月26日時点で申込者は2名。6月以降、全5回の金曜日開催で、初回は6月12日を予定。問題解決型学習の手法を用い、現場の課題解決・改善に取り組むことが報告された。テーマ設定、中間報告、仮説検証、解決策の具体化、成果発表と振り返りで構成されていることが説明された。

③和漢古典籍研修

5月26日時点では4名。立正大学の古書資料館を会場としつつ、対面またはオンラインで参加できるハイブリッド形式で実施予定であることが説明された。初回は6月25日木曜日であり、和歌古典籍の基礎知識、タイトルと責任表示、出版事項、巻数・版式等の記録を扱い、古典籍資料を用いて読み取り実習を行い、最終的に書誌へまとめる内容になっていることが報告された。

④電子リソース研修

5月26日時点で20名。全5回で構成され、初回は6月11日木曜日、データベース、電子ジャーナル、電子書籍等の管理方法、コレクション形成、契約管理、技術的課題を扱うことが報告された。電子リソースの種類と成り立ち、流通、課題と活用、契約管理・ERM動向、技術に関する内容で構成されていることが説明された。

⑤利用者サービス研修

5月26日時点で申込者数は13名。初回は6月19日金曜日を予定、対利用者および職場内でのコミュニケーション手法を扱うことが報告された。傾聴力・質問力、適切に伝える方法、生成AI時代の利用者教育設計、ホスピタリティを意識したサービスの振り返りを行う内容となっていることが説明された。

(3) PB研修の追加募集及び広報方法

PB研修については申込者数が少ない状況であるため、再度募集案内を行う方針であることが共有された。過去には3名で実施した事例もあり、参加希望者がいる以上できる限り実施したいという基本姿勢が共有された。一方で、直前まで募集を継続したうえで最終的に開催しない判断を行うことは、講師や関係者への負担が大きいため避けたいとの意見が示された。実施前提で募集を継続し、実施が困難となる可能性がある場合には早めに関係者へ連絡する方針で確認された。

(4) オンデマンド研修「雑誌コース」

オンデマンド研修として雑誌コースを開催する予定であることが報告された。昨年度は図書コースであり、図書コースと雑誌コースは毎年交互に実施していることが報告された。雑誌コースは、NACSIS-CATにおける目録作成を中心に、雑誌の取り扱いについて学び、実際に目録を取れるようになることを目標とするコースであることが報告された。実施要項の「ディスカッション」については、受講者同士の議論ではなく、質問への返信やサポートの意味合いであるため、誤解を避ける表現に修正する方向で確認された。

(5) 中間アンケート

昨年度は10月に中間アンケートを実施し、結果がまとまるのが11月頃となったため、研修内容への反映やリカバリーが難しかった旨、報告された。今年度は第2回終了後、夏休みに入る前後または8月中に実施できるとよいつの意見が共有された。今年度は8月に中間アンケートを実施する方針で確認された。第1回・第2回の段階で講師からも受講者へ回答を促すよう連絡することが報告された。

(6) メーリングリスト及びGoogleグループ対応

昨年度、メーリングリストに登録していた協会用メールアドレスについて、今年度も使用してよい旨が確認された。今年度からGoogleグループを使用する予定であり、各コースについて承認作業が必要となり、受講者についても、事前案内後に承認を行い、グループ登録を完了する流れとなることが報告された。

以上

(資料)

・2026 年度研修 5 月報告